

ショッピングリハビリで街を元気に

～新しい介護予防事業ひかりサロンのご紹介～



ショッピングリハビリカンパニー株式会社
代表取締役 杉村卓哉

代表紹介



すぎむら たくや

杉村卓哉 (38歳)

鳥取県出身

光プロジェクト株式会社 代表取締役

ショッピングリハビリカンパニー 代表取締役

資格：作業療法士

学歴：島根リハビリテーション学院 2005年3月卒業

職歴：米子東病院回復期リハビリテーション病院 2005年4月～2010年9月

2010年 9月 「高齢者の活動を支援する」プロダクト・アクシィー設立

2011年11月 「楽々カート」を開発

2014年 9月 光プロジェクト株式会社を設立、代表取締役に就任

2015年 8月 「ショッピングリハビリ」事業を開始

2015年11月 「楽々カート」特許取得

2017年 9月 ひかりサロン雲南を開業（月・火・水）

2018年 9月 ひかりフィットネス（金）

2019年 4月 ショッピングリハビリカンパニー株式会社設立

高齢者を光齢者に！

会社概要

会社名：ショッピングリハビリカンパニー株式会社

所在地：島根県雲南市木次町里方30-2

設立：2019年4月24日



買い物リハビリ全国へ

カートを押して買い物を楽しむのが健康増進に介護予防を促す。ショッピングリハビリを認める。ショッピングリハビリは、認知症の作業療法士村松卓哉さん(88)が考案し、全国から注目されている。北海道釧路市や静岡県清水市などの介護事業社を設立し、全国展開を目指す。(山本純)

ショッピングリハビリは、高齢者が歩行器に買い物かごをつけた「楽々カート」を押しながらスーパーの店内を回る。村松卓哉さん(88)が考案し、雲南市木町のJ.R木次郎前の商業施設「開設した事業所」ひかりサロン(雲南)が提供。高齢者は自宅まで迎えに来たスタッフが車でサロンへ出かけ、筋力高めめの運動をした後、商業施設内で買い物をする。品物などまで運ばない、店員との会話もする。店内を歩き回る

雲南・作業療法士 専用カート考案



ショッピングリハビリ用のカート(右)を考案した村松さん(左)は一般的なカート(雲南市木次郎町)

介護予防当たり前前に

介護予防が期待されている。村松さん、出身地の静岡県清水市内の病院でリハビリを支援してきた。高齢者が「買い物」に行きたいと話すと聞いて、運動にもなり、健康増進や介護予防が期待されている。村松さん、出身地の静岡県清水市内の病院でリハビリを支援してきた。高齢者が「買い物」に行きたいと話すと聞いて、運動にもなり、健康増進や介護予防が期待されている。村松さん、出身地の静岡県清水市内の病院でリハビリを支援してきた。高齢者が「買い物」に行きたいと話すと聞いて、運動にもなり、健康増進や介護予防が期待されている。

高齢者に笑顔と元気

蓮田の施設 認知症予防にも 県内初導入

高齢者が買い物から健康増進を促す「ショッピングリハビリ」。認知症の作業療法士村松卓哉さん(88)が考案し、雲南市木町のJ.R木次郎前の商業施設「開設した事業所」ひかりサロン(雲南)が提供。高齢者は自宅まで迎えに来たスタッフが車でサロンへ出かけ、筋力高めめの運動をした後、商業施設内で買い物をする。品物などまで運ばない、店員との会話もする。店内を歩き回

「ショッピングリハビリ」で効果



介護スタッフに付き添われ専用カートを押しながら買い物を楽しむ蓮田市東6丁目の東武ストア蓮田マイン

「ショッピングリハビリ」は、認知症の作業療法士村松卓哉さん(88)が考案し、雲南市木町のJ.R木次郎前の商業施設「開設した事業所」ひかりサロン(雲南)が提供。高齢者は自宅まで迎えに来たスタッフが車でサロンへ出かけ、筋力高めめの運動をした後、商業施設内で買い物をする。品物などまで運ばない、店員との会話もする。店内を歩き回

100世代 日本

養老期 楽々 高齢者に 楽しみを 許す

「100世代 日本」は、高齢者の生活を支えるための取り組み。養老期に楽しみを許すことが重要であると提言されている。高齢者は健康増進や介護予防を促す「ショッピングリハビリ」に取り組んでいる。認知症の作業療法士村松卓哉さん(88)が考案し、雲南市木町のJ.R木次郎前の商業施設「開設した事業所」ひかりサロン(雲南)が提供。高齢者は自宅まで迎えに来たスタッフが車でサロンへ出かけ、筋力高めめの運動をした後、商業施設内で買い物をする。品物などまで運ばない、店員との会話もする。店内を歩き回

埼玉新聞
2019年4月29日

読売新聞
2019年5月30日

韓国ハンギョレ新聞
2019年6月2日

楽々カートとは



特許・意匠・商標 取得

サイズ：全長 921mm × 幅 512mm × 高さ 895~1095mm

重量：12Kg 7段階調整可能

中国上海で量産



施設でのリハビリ



一生懸命

忍耐

閉鎖空間

ショッピングリハビリ



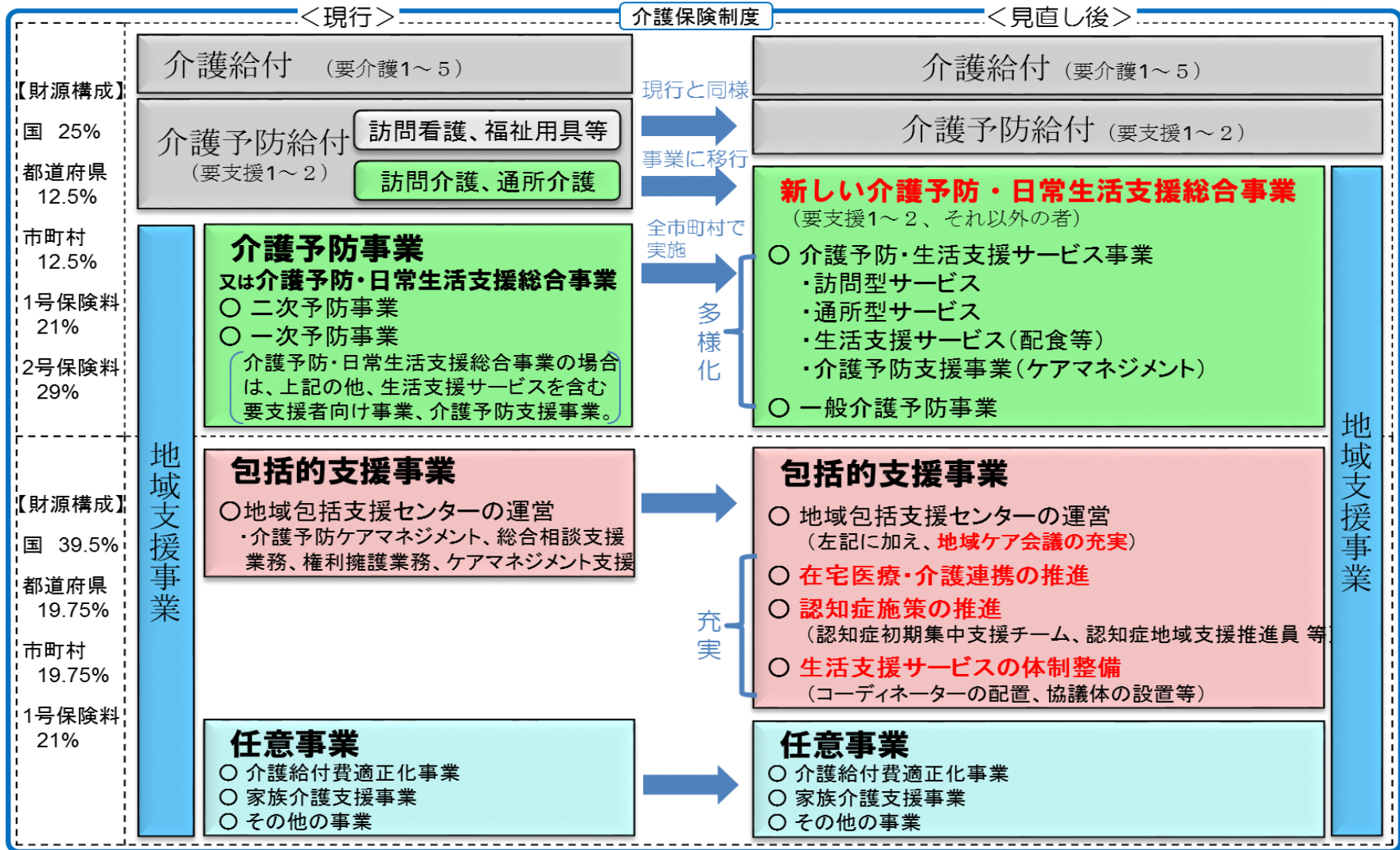
エンターテイメント コミュニケーション

楽しむ・明るい

解放空間 (積極的社会参加)



2018年度から始まった 「介護予防・日常生活支援総合事業」



※厚生労働省ホームページ「介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方」より抜粋

＜運動機能面＞

- **歩行能力・下肢筋力の向上：**
広い館内をカートで歩く。
- **リーチ動作・バランス力：**
商品に手を伸ばす。

<認知機能面>

- **記憶の呼び出し**：冷蔵庫に何が残っていたか。
- **商品の評価**：品質や値段を吟味する。旬の物など季節感を感じる。
- **経済活動**：所持金の管理・計算する。
- **空間認知**：生鮮食品・冷蔵食品などの場所やレジの位置などを認知する（店内の地図が頭にできる）



健康増進
+
買い物弱者対策



基本理念
光齢者が豊かに過ごせる
地域社会の創造



社会保障費
の抑制

地域経済の
活性化



医学的検証



ショッピングリハビリの効果 島根大学人間科学部 共同研究より

(※平成29年島根発ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業)

- ・「運動器」「閉じこもりの頻度」が有意に変化
→**ショッピングリハビリ開始後では運動器の向上と、閉じこもりの改善がみられた**
→**介護予防への参加率が高齢者人口の0.8%占めるなか、健康増進だけでなく、「閉じこもり対策」の1つの大きな解決策となる**

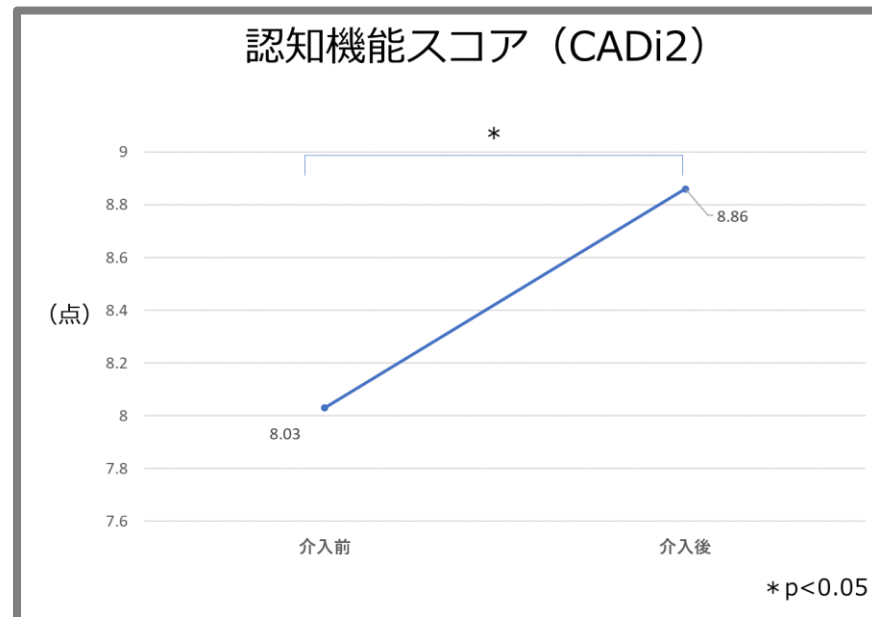
基本チェックリスト項目別変化 (*有意差あり)

	開始時	3カ月後	p値
運動器の問題あり(%)	80.0	32.7	0.001*
低栄養(%)	12.7	36.4	1.000
口腔機能の問題あり(%)	21.8	10.9	0.453
閉じこもり(%)	63.6	23.6	0.002*
認知機能低下(%)	34.5	25.5	1.000
うつ傾向あり(%)	47.3	25.5	0.267

ショッピングリハビリの効果 島根大学人間科学部 共同研究より

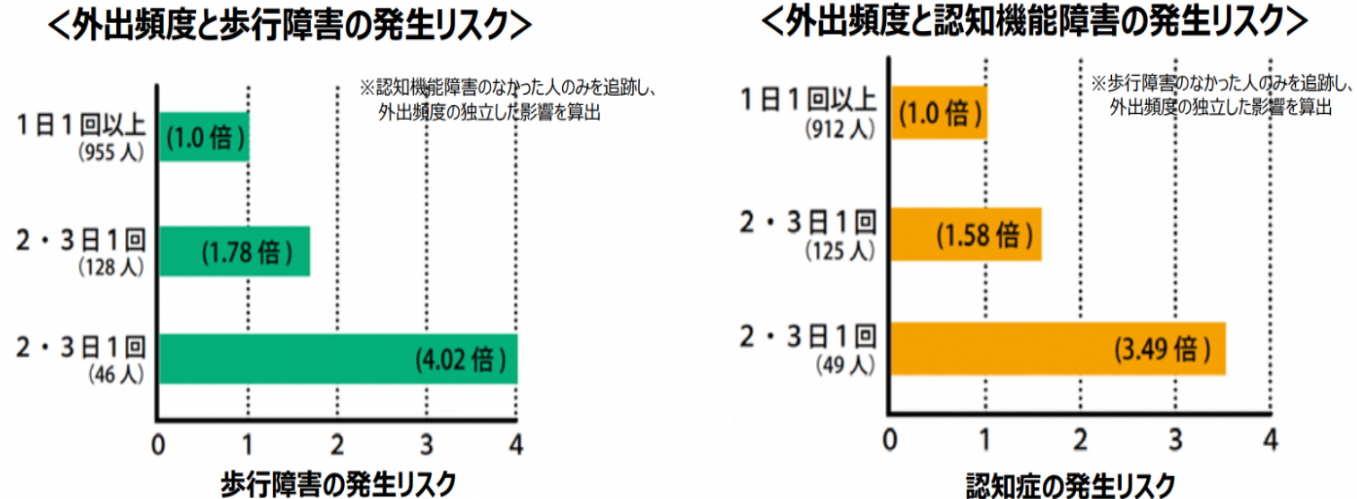
(※平成29年島根発ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業)

- ・ 認知機能のスコアが優位に向上
 - 運動機能だけでなく、認知症にも効果が認められた
 - 身体を動かしながら頭を使うこと（二重課題）による効用や支払い活動による脳への刺激などが認められた



将来の介護需給に対する 高齢者ケアシステムに関する研究会（経産省）

外出頻度を増やすことで、歩行障害と認知症の発生リスクが大幅に軽減。



(出典) 財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所【第93・95回老年会公開講座 第三のキーワード!】
(Journal of Epidemiology 2006;16:261-270)

・後期高齢者が介護が必要になる主な原因である、「認知症」「骨折・転倒」は、外出頻度が増すことでリスクが大幅に減少する
→島根大学との研究でも、ショッピングリハビリの効果として、閉じこもりの解消、特に女性の社会参加、外出頻度の増加に対する効果は大きいと言える

地域経済の活性化



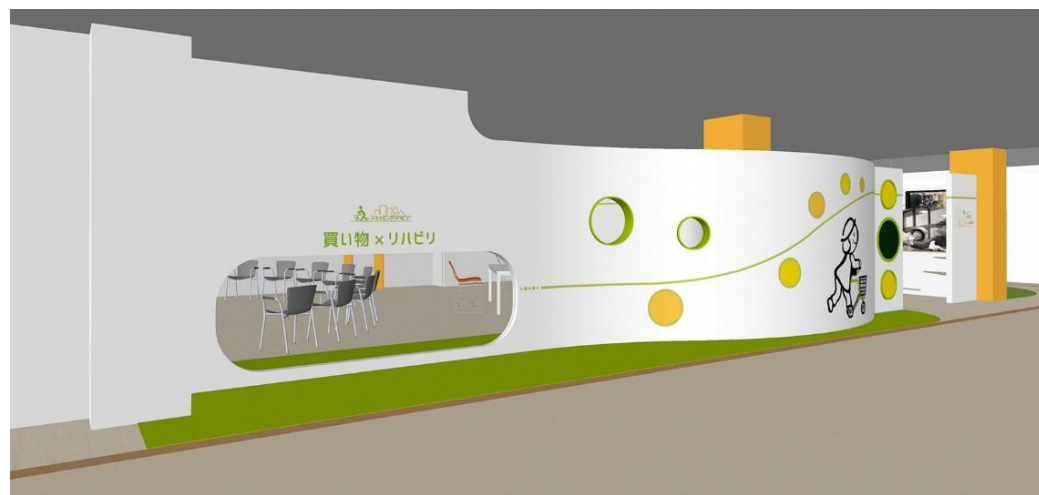


オーバーストアにより、どこの商業施設も空きスペースが目立つ中、
商業施設でのショッピングリハビリの実施は、**賑わい創出・地域経済**の活性化に繋がる

ひかりサロンの導入事例



@島根県雲南市 H29年9月1日 OPEN



@島根県横田町 H30年3月14日 OPEN



@埼玉県蓮田市 H30 5月 OPEN

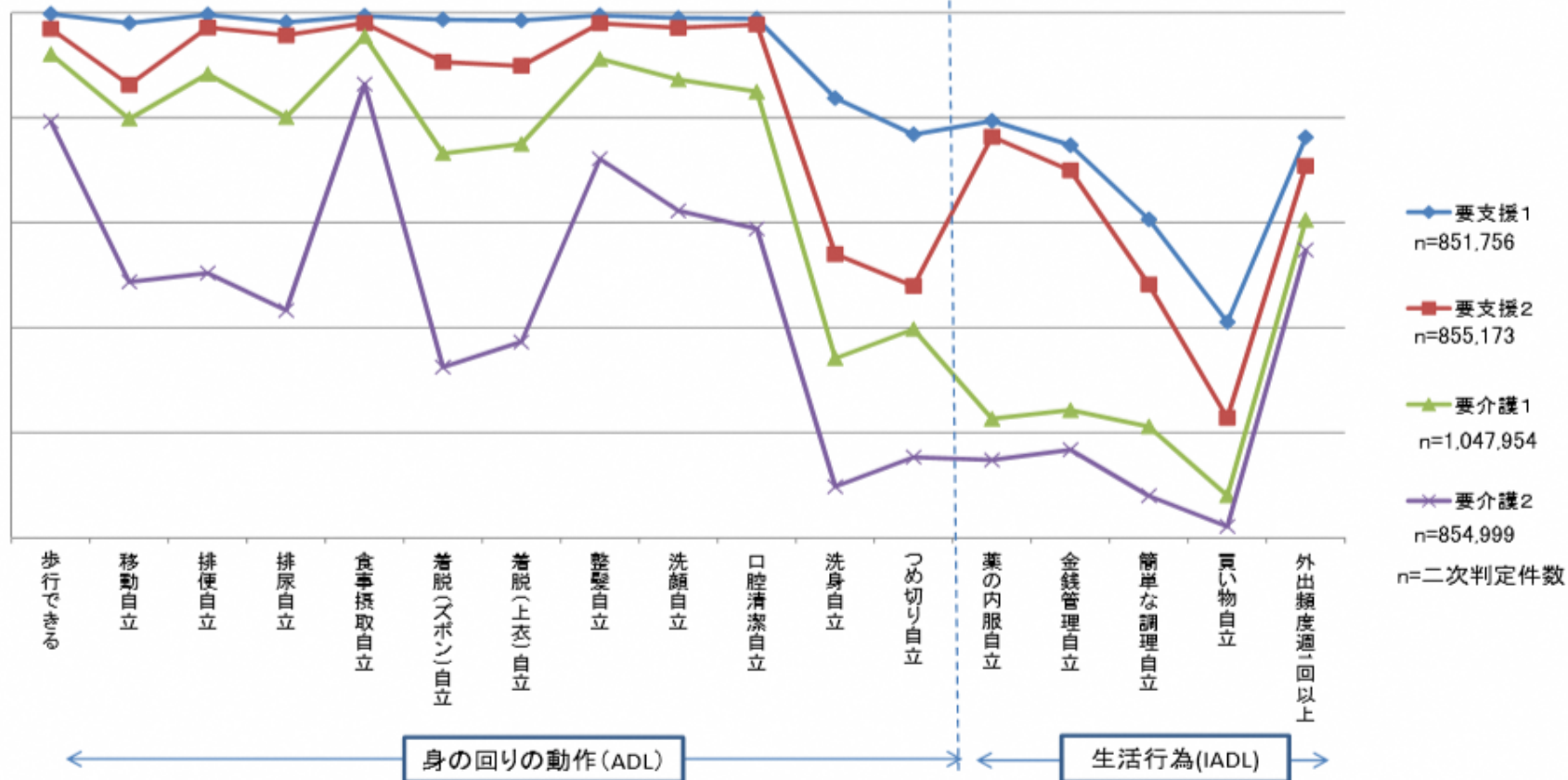


@静岡県清水市



(ご参考)

要支援者のほとんどは、身の回りの動作は自立しているが、買い物など生活行為の一部がしづらくなっている。



※1 「歩行できる」には、「何かにつかまればできる」を含む。

※2 平成23年度要介護認定における認定調査結果(出典:認定支援ネットワーク(平成24年2月15日集計時点))

※平成26年1月17日 第101回市町村職員を対象とするセミナー「要支援1～要介護2の認定調査結果」

～高齢者を光齢者にするプロジェクト 1～



初回
●104人の参加

2回目
●84人の参加

～高齢者を光齡者にするプロジェクト 2 ～



～高齢者を光齡者にするプロジェクト 3～

